

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

未来を切り拓く子どもたちを育てます
 ・自らねばり強く学び、生きる力 (知・体)
 ・互いの違いを認めあい、思いやる心 (徳)
 ・多様性を尊重し、グローバルな視点をもつ力 (公・開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

【自分づくりに関する力】
【持続可能な社会の創造に貢献する力】

具体化した資質・能力

- 継続的にねばり強く学び続ける力
- 他社尊重と思いやる心
- 多様性と国際的な視点に立つ資質

中期取組目標

○全教職員で同じベクトルの下、未来を切り拓く生徒の育成に取り組みます。
 ・個に応じた指導を充実させるとともに、生徒が主体的・対話的で深い学びに向けた授業を目指す。
 ・挨拶を大切に、自尊感情・自己肯定感を高め、互いの違いを認め合う人間尊重の精神を育てる。
 ・心と体を一体としてとらえ、学校生活や生涯を通して積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる。
 ・社会的視野を広げ、社会の一員としての自覚と責任を高めるとともに郷土愛を育てる。
 ・小中一貫教育を推進するとともに地域や家庭、関係機関との連携を深め、地域に根付いた、開かれた学校を目指す。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導の充実	①校内授業研や小中一貫ブロック授業研を通して研修を深め、生徒自らが問いを見だし解決していく授業を目指す。②分析チャートや生徒・保護者による授業評価を活用して授業を見直し、生徒のねばり強い取組や自己の学習の調整を促す。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

・ここ数年の横浜市学力学習状況調査の結果では、横浜市の平均との比較において、学力の状況は全体として向上していたものの、昨年度は多くの教科で下回る結果となった。

・学習意識・生活意識では、横浜市の平均的な水準になってきたとみられる。結果を精査し、引き続き、授業改善に取り組み、基礎・基本の確実な定着と主体的・対話的で深い学びの実現を進めていくことが大切である。

・横浜市の平均との比較において、全体的に課題が見られる観点は、次の通りである。
 国語：1年「読む」2年「話す・聞く」「知識・理解・技能」3年『全観点』
 社会：1年「思考・判断・表現」「知識・理解」3年「思考・判断・表現」「知識・理解」
 数学：1年『全観点』2年『全観点』3年「技能」
 理科：1年『全観点』2年「科学的な思考・表現」「観察実験の技能」3年「科学的な思考・表現」
 外国語：1年『全観点』2年「聞くこと」「言語に関する知識」3年『全観点』

今年度の目標

○昨年度の新教育課程における評価・評定の実施をうけて、表面化した課題を踏まえた授業改善を実施する。○全教職員がクロームブックを活用し、ねばり強く学習に取り組める環境を整え、基礎学力の向上と未来を担う生徒の育成に取り組めます。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・各教科において、単元・題材の目標を明確にし、評価規準をしっかりと生徒に提示することで、粘り強く学習に取り組める環境を整えます。
 ・生徒が主体的に学習に取り組めるように、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする場面を授業の中で設定します。
 ・生徒が対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりできる授業を目指します。
 ・学習における基礎・基本を大切に、身に付けた知識や技能を使って思考力・判断力・表現力等をはたらかせながら、よりよく解決していく力を育みます。
 ・クロームブックなどのICTを活用し、個に応じた指導を充実させるとともに、問題発見や自己解決能力向上に役立てます。

下半期
 ・生徒自身が興味を持って積極的に学べる授業を行い、学習活動を振り返って次につながることを授業改善うさらに推進します。そのために、エビデンスに基づいた指導・支援を行うとともに、ICTをはじめとするテクノロジーの効果的に活用した研究授業を実施します。
 ・特別支援教育や登校支援など、学習や発達を取り巻く教育的ニーズに応じて、連続性のある多様な学びの場の充実を図り、多様な個性や能力を伸ばします。
 ・これまで培った知識や経験を活かし、様々な情報を色々な角度から精査したり、知識を相互に関連付けたりして、物事を深く考え、真理や本質を見極める力を磨きます。その上で、学びを人生や社会とつなげ、豊かな発想を基に、グローバルな視点を持つ力を育みます。
 ・全国学力学習調査や横浜市学力学習調査の結果を考察し、本校の課題解決に向けた研究授業を実施する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①横浜子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」をさらに浸透させるとともに、確かな人権感覚・意識の向上を図るために全校で人権作文・人権週間における活動に取り組む。②体験学習や地域行事を通して思いやる心や公共心を育成し、社会の一員としての自覚を高める。
担当	学習指導部

豊かな心に関わる本校の状況

・入学したての頃は、小学校生活との違いや、出身小学校の違う生徒との交わりの中で、些細ないざこざが発生しやすい。また判断力が乏しく、多勢の雰囲気になされてしまい、道徳的に正しいと思う行動に移せないことがある。

・部活動や行事に一生涯取り組む生徒が多く、その中で他者との好ましい関係作りやコミュニケーションの取り方を身に付けている様子が伺える。

・学級活動、生徒会活動で他者との関わりを持つことが好きな生徒が多く、行事などに積極的に取り組み、やり遂げることで味わえる達成感を体験した生徒も多いが、生活意識調査や、自己意識調査では、自己肯定感の低さが垣間見える。

今年度の目標

・緑園義務教育学校と分かれ、学校規模や環境が変化する中でも互いを仲間と認め、尊重し合える集団作りを行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育
 道徳教育の要となる道徳の授業を通して、道徳的な見方・考え方の多様化を図り、自己をより深くみつめ、よりよく生きようとする道徳的な判断力や実践力を身につけるようにする。
 ・各教科と「道徳の時間」との連携を促進する。
 ・「新しい道徳」の教科書や視聴覚教材の活用と、全校道徳の実施。
 ・より良い道徳の授業を目指して、教師の道徳の授業の実践力を高める。
 ・学校参観週間に、全学級の道徳の授業を家庭・地域に公開する。

○すべての教育活動を通して、人権尊重の精神を育み、自尊感情を育て、自分と他者の人権を大切にしようとする意識を養う。
 ・人権作文、人権週間での活動に全校で取り組む。
 ・よりよい人間関係作りに必要な基礎を築くことを目標に、あいさつ運動を実施する。
 ・福祉委員会のボランティアや募金などの福祉的活動への参加の呼びかけを行う。

下半期
 ○道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育
 道徳教育の要となる道徳の授業を通して、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、規範意識、場に応じた判断力、他者の気持ちを尊重する心情、意欲などの、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
 ・各教科と「道徳の時間」との連携を充実させる。
 ・「新しい道徳」の教科書や視聴覚教材の活用と、全校道徳の実施の継続。
 ・より良い道徳の授業を目指して、教師の道徳の授業の実践力を高める。
 ・学校参観週間に、全学級の道徳の授業を家庭・地域に公開する。

○すべての教育活動を通して、人権尊重の精神を育み、自尊感情を育て、自分と他者の人権を大切にしようとする意識を養う。
 ・人権作文や人権週間に講演会などを実施し、人権問題についての啓発をする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①新体カテストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図る。 ②健康手帳を活用して、体カテストの結果や身体計測の記録等を共有し、自らの心と体を健やかに育み、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
担当	保健体育科・保健安全指導部

健やかな体に関わる本校の状況

・体カテストの結果が、全国や県の平均よりやや低い。
 ・朝食摂取率は高いが、摂取していない生徒もいる。また、栄養バランスについてはやや偏りがある。
 ・保健室の利用度：行事前に緊張から体調を崩して保健室を利用する生徒がいる。
 ・部活動の加入率は高く、加入していない生徒は外部のスポーツクラブに在籍していることが多い。

今年度の目標

○自ら運動をする喜びを感じさせ、生涯を通じて運動を楽しめる技能を身につける。
 ○運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる。自己の健康に留意し、家庭や学校での生活を考え工夫する

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○体カテストの結果をもとに、毎時間の授業に補強運動を行い、体力の向上を図る。
 ○「健康手帳」を活用して、体カテストの結果や身体計測の記録等、体育健康に関する情報を家庭と共有する。
 ○体育祭では、保健体育科で培った資質能力の発揮の場とする。
 ○学校保健委員会では、岡津中学校生徒の健康実態や生活習慣の課題をもとにテーマを設定し、具体的な改善方法について話し合い、全校生徒へ発信・共有する取り組みを行う。
 ○家庭科では、「食生活と自立」の中で食育との関連を図る。
 ・ハマ弁の推奨
 ・コンセプト・献立内容・栄養価等の良さを理解する。
 ・昼食時間20分間の確保

下半期
 ○新体カテストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図る。
 ○「健康手帳」を活用して、体カテストの結果や身体計測の記録等、体育健康に関する情報を家庭と共有する。
 ○学校保健委員会では、岡津中学校に必要な課題を考えてテーマを設定し、具体的な改善方法について話し合い、全校生徒へ発信・共有する取り組みを行う。
 ○家庭科では、「食生活と自立」の中で食育との関連を図る。
 ・ハマ弁の推奨
 ・食事を通じた人間関係形成能力を身につける。
 ・成長期におけるバランスのとれた食の大切さを理解する。